

11月～12月
(告知)のりた

時 開催時間 対 参加対象
所 開催場所 申 参加方法
¥ 参加費 持 持ち物
定 定員(選定方法)

11/16 土 むらさき麦の栄養と調理法をしよう
～洋風料理とお菓子～

愛知学泉短期大学・藤川まちづくり協議会と協働した企画。栄養を学びながら、むらさき麦100%のガレット(クレープ)や、ドリアなどを作ります。

時 10:00～13:00
所 むらさきかん調理室
¥ 300円 定 20名(先着順)
申 必要。直接または電話にて、むらさきかんへお申し込みください。

11/30 土 やはぎ大衆～ものづくり講座～
クリスマスリースの飾りつけ

手仕事などの職業体験も行う。社会福祉法人せきれい彩(さい)から講師を招き、クリスマスリースの飾りつけ体験講座を開講します。

時 14:00～16:00
所 やはぎかん 防災活動室
¥ 1,000円 定 15名(先着順)
申 必要。やはぎかんへお問い合わせください。

12/7 土 おかぶらinなごみん
『ふるさとを語り継ぐ～岩津の昔と今、そして未来～』

『岩津風土記』や『岩津八景』の著者、兵藤進一氏を招き、岩津の地域づくりについての講演と意見交換を行います。

時 10:00～12:00
所 なごみん 3階ホールA
¥ 無料 定 100名(先着順)
申 不要。当日、直接お越しください。

11/3 日 QURUWA菜園inりぶら
野菜づくり体験

QURUWA菜園inりぶら(P.7)では、毎週日曜日(冬期は隔週開催)にプランターでつくる野菜づくり体験を開催しています。11月～は野菜の育成状況に併せて順次収穫をいたします。栽培体験のほか、家庭菜園実践者の方へのアドバイスも行います。

時 毎週日曜日 10:00～12:00
(12月～は隔週開催)
所 図書館交流プラザ・りぶら
ストリート広場南西の砂地部分
¥ 無料 ※収穫物のお持ち帰りは量に応じて有料(1種100円程度)
申 必要。直接または電話にて、市民活動センターへお申し込みください

※天候により催行を中止する場合があります
※最新情報はこちら
→<https://www.facebook.comquruwa.community.garden/>



NEWS

まち育てスクール

11/23 土 歴史探訪!
秋の山中城址を歩く

東部地域の魅力を発見するまち歩き。県下最大級の山城跡と、歴史あふれる山中八幡宮を巡ります。城跡のある山頂からは、まちの様子を一望することができます。

時 8:45～13:00
所 山中城址、山中八幡宮周辺
¥ 300円 定 20名(先着順)
申 必要。直接または電話にて、むらさきかんへお申し込みください。



11/9 土 りぶらスタディーツアーズ2019
図書館の裏側って
どんなところ?

県内有数の蔵書数を誇る、岡崎市立中央図書館の裏側を解説します。膨大な数の本の保管方法や、書籍を仕分ける機械など、図書館の謎に迫ります。
※「りぶらまつり2019」運動企画として開催します

時 15:00～15:30
所 図書館交流プラザ りぶら
¥ 無料 定 20名(先着順)
申 必要。直接または電話にて、市民活動センターへお申し込みください。

※特別公開



11/17 日 りぶらスタディーツアーズ2019
自分を生きるって
むずかしい?

協働には相互理解が大切です。今の自分を表す、整理する、伝えるワークショップを通して自分の声に耳を傾けてみませんか?身近なもやもやから多様な個人が尊重される地域づくりについて考えます。

時 10:00～11:30
所 地域生活サポートセンター・コネクトスポット(岡崎市伝馬通2丁目49番地)
¥ 無料 定 10名(先着順)
申 必要。直接または電話にて、市民活動センターへお申し込みください。

※WEB申し込み可



<https://forms.gle/cDQyUdBuE8dePFdT6>



まちのミカタ

Litaracy

ーりたらしいー

100
2019年11月



特集

ーりたらしいー

Litaracy 100号と
りたのこれまでを振り返る



りたの機関紙として2006年10月に創刊された「りた便り」(月刊)は、2010年7月発行の46号より「Litaracy」(隔月刊)として生まれ変わり、今号で記念すべき100号となりました。

りたが設立された当時(2006年6月設立、NPO法人として認証されたのは同年9月)、日本は世界に先駆けて人口減少社会に突入し、少子高齢化、防犯、防災、福祉、環境といった多様化する社会問題に対して、行政のみで対応することの限界が指摘される一方で、必要な社会サービスの担い手として、市民や企業への期待が高まっていました。そこで、りたは「市民及び市民団体、企業が行う社会貢献活動を促進し、

市民・企業・行政が相互に参加や協力するまち育てを支援することで、岡崎市の協働型社会づくりを促進する(定款より)」中間支援組織として産声を上げました。以来、まち育てに関わる立場や行動原理の異なる人・団体の間に立ち、意見を整理・調整したり、それぞれの活動を支援することで、「市民が公共の担い手となること(新しい公共)」と、「自分たちのまちを自分たちで良くすること(市民自治)」を促進してきました。

今号では、これまでりたの活動やその意図を伝えてきた「りたらしい」を手掛かりに、これまでのりたの活動を振り返ります。

まちのミカタ
Litaracy

発行・編集



特定非営利活動法人

岡崎まち育てセンター・Lita

配布

岡崎市図書館交流プラザ・Libra/岡崎市内の地域交流センター
会員宛へ郵送 等 ※会員登録をご希望の方は左記までご連絡ください。

配布協力

岡崎市役所各支所/岡崎市各市民センター/シビックセンター/
FMおかざき/杉くんの駄菓子屋/angelshare/松應寺/cafeくらがり

2019.11 vol.100

〒444-0031 愛知県岡崎市梅園町字3丁目6-6
TEL(0564)23-2888/FAX(0564)23-2898
<http://www.okazaki-lita.com/>
<https://www.facebook.com/okazaki.lita/>

「私」と「まち」を結ぶ、りた

「私」と「まち」を結ぶ＝『新しい公共』の構築【p. 7】

私たち一人ひとりが、まちの当事者として関心を持ち、まちの将来像を描き、実現する主役として関わる場づくりを通じて、「私」と「まち」を結び、『新しい公共』を築きます。

① 地域の活力を蓄える【p. 3】

その地域に何があるか、どんな人があるのか、拠点の運営等を通じて日々情報を収集し、関係を築くことで地域の活力を蓄えています。

② 地域の資源を活かす【p. 4】

地域に潜在する資源に光を当て、それまで見過ごされてきたまちの価値を見出し、広く共有し、誇りや愛着を持つ人、関わる人を増やすことで、地域の活力を高めます。

③ 地域の課題を解決する【p. 5】

地域課題を地域の人自らが把握し、共有することや、明確になった地域の課題を“対応可能なサイズに切り分ける”ことを支援し、地域でできる地域課題の解決を促進します。

『市民自治』の実現

①地域の活力を蓄え、②地域の資源を活かし、③地域の課題を解決することができる『市民自治』の実現を図ります。

「持続可能な社会」の実現

●PICK UP

- 康生地区再活性化拠点基本計画ワークショップコーディネート業務(2004-05)
※まちの縁側育み隊として受託
- 康生地区再活性化拠点市民サポーター活動支援業務(2005-06)

●りたの役割 ①ファシリテーション ⑤仕組みづくり ⑥担い手発掘

公共空間は、行政まかせの最たるものの一つです。公園、図書館、道路などがどんな場所になったらよいのか、かつてはそうした公共の計画に市民が意見やアイデアを伝える場はありませんでした。りたの前身の一つである「岡崎CDC研究会」は、⑤公共施設計画・デザインへの市民参加の対話の場づくりを提案し、りぶらの計画プロセスでそれが実現しました。④建設的な対話の場が成立するように、どのようなプロセスで、どのような参加者と、どのような切り口で話し合うべきかを考え、整理し、その地域ならではの、より創造的な意見や提案を引き出すのがりたの仕事です。

こうした対話の場から、⑥参加者に「自分たちの提案を行政にお任せするのではなく、自分たちで実現したい」という意識が生まれ、市民自らりぶらのソフトを提案・実現する「りぶらサポータークラブ(LSC)」の設立につながり、りぶらを起点としたまち歩きに誘う「りぶらぶらりMAP」の作成、りぶらにおける託児サービスを担う「りぶらっこ★ふぁみりー」の設立、図書館の映像資料を有効活用する「シネマ・ドリぶら」など、さまざまなサポーター活動が生まれています。市民の公共施設の計画から運営にいたる積極的な参加は、まさに「新しい公共」の形を体現していると言えるでしょう。

これらの取組みがきっかけとなり、市内の公共施設や計画づくりに市民参加の手法が用いられるようになっていきました。

りたの使命は、「持続可能な社会」につながるまち育てを進めること(設立趣意書より)です。まちが持続可能であるためには、暮らす人のまちへの愛着や関わりが必要不可欠と言えますが、いつからか私たちは、まちのことを行政頼み、人まかせにすることが当たり前になり、まちへの愛着を持ちづらく、まちとの関わりが希薄になってしまいました。

そこで、りたは、自分の暮らすまちに関心を持つ機会をつくったり、さまざまな形でまちに関わる場を設けたりすることで、「私」と「まち」を結びます(=「新しい公共」の構築)。そのことがさらにまちに関わる原動力となり、地域の活力が高まり、地域が主体となって地域資源を活かし、地域の課題を解決する仕組みをつくること(=市民自治)が、持続可能な社会の実現につながると考えています。

●その他の事例

- ・むらさきかん基本計画ワークショップコーディネート業務(2007-08)
 - ・東岡崎駅北口にぎわい広場検討ワークショップ運営業務(2009)
 - ・悠紀の里基本計画ワークショップコーディネート業務(2010-11)
- など



●バックナンバーで見る、あの時



◀Litaracy95 | 2018.11

岡崎初の本格的な市民参加事業「りぶら」の10年とこれから

延べ1,000名超の市民が参加したりぶらの計画プロセスと成果を振り返り、これからの展望を示した。

9月～10月(報告)のりた

むらさきかん

9/8

むらさきかんまつり2019 ～東部のいいところ！見つけまつり～



東部地域の市民と活動団体(49団体)との交流イベント。舞台発表や物販・体験ブースに加え、東部地域の課題に即した講演会や展示、屋外での木工品づくりなどのコーナーを設け、好評でした。【2,521名参加】

まち育て推進チーム

9/15

QURUWA菜園 in りぶら



りぶらの南西にある広場を活用して、農と食について学ぶコミュニティ菜園と青空教室を暫定的に設置しました。野菜作りの体験を通じて、人々が集い、学びあうひとときが生まれました。【14組32名参加、総来場者数約70名】

※活動の詳細・野菜づくり体験日についてはこちら
→<https://www.facebook.com/quruwa.community.garden/>

まち育て推進チーム

9/28

QURUWAピクニックトーク #1 @乙川ナイトマーケット



QURUWA戦略の啓発を目的として、屋外で気軽に参加できるトークイベントを開催。乙川河川敷でたき火を囲みながら、QURUWAエリアの楽しみ方をテーマに意見交換をしました。【30名参加】

※QURUWAとは・・・
名鉄東岡崎駅や籠田公園、図書館交流プラザ・りぶら、岡崎公園、乙川など、中心市街地に点在する公共空間を結ぶ回遊動線のこと。そのエリアががつての岡崎城跡の「総曲輪(そうくわ)」と重なること、「Q」の字に見えることからQURUWAと名付けています。市民や来訪者が楽しむことができ、市内の他エリアと繋がるまちを目指しています。(参考資料「市制だよりおかざき(2019年10月号)」)

悠紀の里

10/1～20

第4回みんなのむつみ展



六ツ美をテーマにした写真、絵画、造形作品などを市民から募集し、地域の魅力を見つめ直すことを目的とした展示会。70点もの作品が集まり、多くの来館者に鑑賞いただきました。

やはぎかん

10/5

やはぎかん 防災講座 おやこのためのおいしい非常食をたべよう！



防災意識の向上を目的とした講座。非常食の試食はもちろん、市の防災課とコープあいちから職員を招き、災害用語や手軽な防災グッズについての講演会を実施しました。【25名参加】

悠紀の里

10/6

ゆきファミリーパーク ～10/6おやこのきねん日～



子育て支援団体(16団体)との協働企画。手遊び体験のステージ発表や、育児雑貨の販売などが行われ、各団体の活動内容を具体的に知ってもらう機会となりました。【257名参加】

まち育て推進チーム

10/14

QURUWAピクニックトーク #2 @籠田公園



第2回目は、リニューアルされた籠田公園で実施。あいにくの雨でしたが、屋根のあるデッキテラスを活用し、QURUWAエリアでやりたいことについて話し合いました。【49名参加】

市民活動支援チーム

10/20

西三河初！社会課題に向き合う活動団体のための「NPO資金調達まるわかりセミナー」

社会課題解決のために活動しているNPOや市民活動団体、ボランティア団体の支援を目的とした講座。助成団体と採択団体のそれぞれの視点による事例発表や、各助成金の特徴・審査基準などについての学びの場となりました。【47名参加】

※主催はNPO法人地域の未来・志援センター、一般財団法人セブン・イレブン記念財団。りたは本企画に共催しました。

●りた便り～Litaracyの変遷 ＊バックナンバーはホームページ(www.okazaki-lita.com)でご覧いただけます。



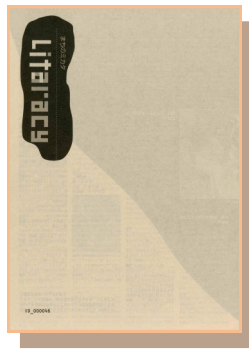
▲りた便り01 [2006年10月発行]

NPO法人の認可が下りた翌月に発行した記念すべき創刊号。まちづくりへの参画を促す情報の掲載など、りたの活動や理念を伝えるためにコミュニケーションを大切にする姿勢はこの頃から確立されていました。



▲りた便り16 [2008年1月発行]

「りた便り」の題字が変更されマイナーチェンジ。誌面から、当時第1回なごみん横丁、東部地域交流センターの基本計画ワークショップ、りぶら開館(2008年11月)に向けた準備が行われていることがうかがえます。



▲Litaracy46 [2010年7月発行]

「りた便り」から「Litaracy:りたらしい」へ。A2判4つ折りにサイズアップし、隔月刊にリニューアル。Litaracyとは、「読み書き能力」を意味する英単語[literacy]と「りたらしい」をかけあわせた造語。



▲Litaracy56 [2012年3月発行]

A2判からA3判2つ折りにマイナーチェンジ。メインコンテンツは、まちづくりに携わる人々の動機とノウハウに迫る「まちづくりのwhyとhow」から、りたスタッフの暮らしの気づきとこだわりを伝える「生活芸述」へ。



▲Litaracy69 [2014年7月発行]

サイズは変わらず、モノクロからカラー判へ。コンテンツは、りたの事業を取り上げて紹介する「メイン特集」と、多岐にわたるりたの事業を網羅的に紹介する「報告」と「告知」のダイジェスト欄に変更。



▲Litaracy81 [2016年7月発行]

りたのロゴマークのリニューアルに伴い、Litaracy誌面のデザインもマイナーチェンジ。ちなみに新旧ロゴ共に「りた」とも「Lita」とも読めるようにデザインされているって知ってました？

●りたの役割 I n d e x ※p.3-5のりたの役割を示すキーワードについて解説

- | | |
|------------|--|
| ①ファシリテーション | さまざまな意見や関心を持つ人々が参加する会議や対話の場において、共通の目的意識や情報を整理し、話し合う内容を順序だてて組み立てる「プロセスデザイン」、意見を引き出しやすくする「プログラムデザイン」等を行い、より建設的かつ創造的な意見交換を促進すること。 |
| ②マッチング | 幅広いネットワークを活用し、社会的なニーズ(こんなことを必要としている、してほしい)とシーズ(こんなことをしたい)をつなぎ、協働の機会を創出すること。 |
| ③相談・情報提供 | 市民活動センター窓口等で市民活動に関する相談を受けたり、地域情報や市民活動に関するアーカイブ(地域交流センター情報誌、岡崎まちものがたり、おかざき市民活動情報ひろばなど)から情報を提供したり、関連する市民団体や支援機関、行政、専門家等につなぐこと。 |
| ④学習機会の提供 | 講座の企画・運営、専門家派遣等を通じて、市民活動、地域活動、まちづくりに関する学習機会や、意外と知られていない岡崎のまちを知る機会を提供すること。 |
| ⑤仕組みづくり | 地域の資源と課題から、誰が、何のために、何を、いつ、どうやってやるのかを整理し、地域が主体的に取り組めるような持続可能な体制や方法を模索・提案・構築すること。 |
| ⑥担い手発掘 | 10年以上の活動で培われた各地域のキーマンや多様なテーマの活動団体とのネットワーク、関心の惹く呼びかけの切り口やデザインの工夫などを用いて、意識啓発や担い手発掘・育成をすること。 |
| ⑦調査・研究 | まちづくりの方向性や仕組みづくりを検討したり、関わる人の動機づけのために、住民の意識を把握したり、地域情報や先進事例を収集し、分析したりすること。 |

1 地域の活力を蓄える



●りたの役割 ②マッチング ③相談・情報提供 ④学習機会の提供 ⑥担い手発掘

今年で12回目となった「なごみん横丁」は、**④なごみん全館を一つのまちに見立て、子どもたちが住民となり、公共の仕事をしたり、自分で起業をしたりしてお金を稼ぎ、税金を納め、選挙で町長や議員を選び、遊びながらまちづくりを体験する「子どものまち」**です。**⑥地元の商店街や教育機関と連携し、4日間で1,800人以上の子どもたちと180人余りのボランティアが集まり、地域ぐるみで未来の地域を担う子どもたちの創造的教育の場**および多世代のボランティアの受け皿として定着しています。

市民活動センターはじめ6つの拠点施設においては、社会貢献したい人の入口として、**④ボランティアをしたい人と、活動を支援してほしい市民団体をマッチングする「まちびとバンク」の仕組みを構築し、年間およそ100件の依頼件数、3,000件超のマッチングにより、市民活動・地域活動に必要なマンパワーを補う支援**を行っています。

また、各センターでは**⑥地域情報にアンテナを張り、日々の情報収集や情報誌および市民活動団体向け情報の編集・発行を通じて、地域情報を蓄積すると共に、地域活動、市民活動に取り組む方々との関係づくりに動んでいます**。そうしたネットワークを活かし、地縁組織や教育機関と連携して、世代間の交流や、地域活動・市民活動の啓発に力を入れています。

「まち育てスクール」では、**⑥歴史・文化・産業、自然、地域活動といった資源に光を当て、まち歩きを通じてその魅力を伝える担い手の育成**を行うと共に、**④地域ならではの学習機会を提供**しています。

「岡崎まち育てフェスタ(通称:まちフェス)」では、**④優れた市民活動・公益活動や市民協働事例を紹介したり、⑥協働意欲のある市民団体、企業、教育機関を募りマッチングを図**ったりするなど、地域づくりの活力を増幅する場づくりを行っています。

こうして蓄えられた活力は、地域の資源を活かしたり、課題を解決する原動力となります。

りたは、岡崎市が市内5か所に設置した市民活動や地域活動の拠点「地域交流センター」と図書館交流プラザの「市民活動センター」を運営することで、自ら公共の担い手となる実践をしています。

地域活動の担い手不足が深刻化する一方で、誰かの役に立ちたい人もいます。そこでりたは、拠点施設の運営を通じて、施設利用者のみならず、地縁組織や教育機関等と良好な関係を築き、地域づくりの担い手の発掘や地域情報の収集・発信を行っています。

こうした拠点に蓄積された社会的ネットワークが、地域づくりの活力の源となっています。

●その他の事例

・よりなん(2006-)、やはぎかん(2008-)、むらさきかん(2012-)、悠紀の里(2014-)指定管理業務
・りぶら市民活動センター運営業務(2008-)など

●バックナンバーで見る、あの時



▲Litaracy53 | 2011.7

子どものまち「なごみん横丁」/子どもと共に育つ横丁と大人たち

なごみん横丁の仕組みや当日の雰囲気、立ち上げ時から携わるスタッフと子どもたちの想いに迫る特集号。

2 地域の資源を活かす



●PICK UP

■乙川リバーフロント地区かわまちづくり支援業務(2016-)
—おとがワ！ンダーランド、殿橋テラスの運営など

「地域に魅力がない」「担い手がない」という課題はよく耳にしますが、私たちの身の回りには、その場所ならではの環境や文化、風習があり、それらを支える人や活動、場所があります。

地元の人しか知らないような魅力もあれば、地元の人気づかずに外から称賛されるような魅力もあります。

りたは、地域に潜在するそうした活用されていない資源に光を当て、それまで見過ごされてきたまちの価値を見出し、広く共有し、誇りや愛着を持つ人、関わる人を増やすことで、地域の活力を高めるまちづくりを実践しています。

●その他の事例

- ・乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン事業(おとがわプロジェクト)(2015-)
- ・岡崎百景選定事業(2014-2016)
- ・公園利活用ニーズ調査(2016-)など

●バックナンバーで見る、あの時



▲Litaracy82 | 2016.9

水辺を使いこなせ！「おとがワ！ンダーランド」

乙川の社会実験と全国規模の水辺活用を紹介し、市民の積極的な公共空間活用を通じた魅力づくりの展望を伝えた。

3 地域の課題を解決する



●PICK UP

■愛知県「新しい公共支援事業」(2012)
—松應寺横丁にぎわい市の開催、空き家活用、高齢者支援など

●りたの役割

①ファシリテーション ⑤仕組みづくり ⑥担い手発掘 ⑦調査・研究

中心市街地の北のはずれにある松本町は、松平広忠公(徳川家康の父君)の廟所がある松應寺を中心に形成されており、江戸時代は門前町として、明治後期から昭和中期までは花街として栄えました。幅員4mに満たない路地や建物群と一体化した木造アーケードは、レトロな魅力を醸し出していますが、空き家の増加や少子高齢化が進行していました。

こうした状況を何とかしようと、2011年7月、①町内会役員、松應寺住職、りた等からなる「松應寺横丁活性化会議(現・松應寺横丁まちづくり協議会)」を発足、同年8月、⑦松本町民を対象としたアンケート調査の企画・実施を支援しました。この結果を元に、「松本町にぎわい基本計画」を策定し、活動の礎を築きました。同計画に基づき、⑥松本町のまちなみの魅力を広く知ってもらい、町内外の人々の関心を集めるため、「松應寺横丁にぎわい市」の企画・実施を支援(2011年11月～)。「にぎわい市」のにぎわいを日常化することを目指し、⑤愛知県「新しい公共支援事業」の補助金を活用し、気軽に立ち寄れる地域の交流拠点「松本なみせ亭」の開設・運営支援を行いました。並行して、不明だった空き家の所有者の把握や活用希望者とのマッチングを促進し、これまでに延べ12件の空き家活用が実現しています。

2013年、⑦町内会長、老人会、民生委員、地域包括支援センターと連携し、お年寄りの暮らしのニーズに関する調査を行い、高齢者の買い物難民化が深刻になってきていることがわかりました。以後⑥毎月定例会を開き、外出機会を損なわず、安否確認を兼ねる会員制弁当屋の運営や定期的な高齢者の会食会の実施、高齢者の居場所となるサロンの開設など、地域ぐるみの活動が広がってきています。こうした地域が主体となった一連の取り組みが「地域包括ケアシステム」のモデル事例として評価され、現在、地域が主体となった高齢者支援の仕組みづくりに取り組んでいる地域包括支援センターとの連携が進んでいます。

今後、いろいろな立場の人が集まる会議に求められるファシリテーション技術や、住民の意向を把握する調査の支援、地域交流センターを軸とした地域活動の支援体制の強化など、りたの強みを活かして、地域ができる地域課題の解決のための支援に注力していきます。

少子高齢化、空き家の増加、地域活動の担い手減少など、さまざまな地域課題が深刻になってきていますが、そもそも自分たちの暮らすまちにどんな課題があるのか、また、そうした課題にどのように対処すればよいのか、明快な答えや方程式がある訳ではありません。

そこで、地域の課題を地域の人自らが把握し、共有することや、明確になった地域の課題を“対応可能なサイズに切り分ける”ことを支援し、地域でできる地域課題の解決を促進しています。

●その他の事例

- ・生活支援体制整備事業(第1層):地域包括ケア支援(2018-)
- ・地区防災計画策定支援業務(2015-16)

など

●バックナンバーで見る、あの時



▲Litaracy71 | 2014.11

松應寺横丁まちづくり協議会「まちづくり賞」受賞

日本建築士会連合会の「まちづくり賞」受賞を記念して、松應寺横丁の空き家活用と高齢者支援の取り組みを紹介した。